

中山道ひし屋資料館



居間、台所



展示室



土間

「町屋建築の典型『ひし屋』」

豪壮な建物内の見所は、商談や寄合に使われ、床の間や障子に特色がある店座敷、長火鉢や囲炉裏のある居間、二間幅の床の間がある中座敷のほか、内庭を眺められる茶室もあります。内庭には、手押し式ポンプを備えた井戸やなまこ壁の蔵、店蔵があり、千石通や竿秤など昔の道具を展示しています。

店蔵は展示室に改修しており、中山道の近隣6宿の様子や、大井宿の特色に触れるもの、ひし屋の商業や村関係の仕事の様子などを展示しています。

大井宿の通りに面したひし屋資料館は、平成9年(1997)に恵那市指定文化財に指定されました。今も市内の小学生の見学、茶道体験、地元の方々による手作りのれんの展示などのほか、県外からの観光客にも立ち寄られています。

「建築当初の状態を可能な限り再現」

中山道ひし屋資料館は、江戸時代中期以降、中山道大井宿の有力な商家であった「ひし屋」古山家住宅を改修・復元し、大井宿の町屋を体験してもらう施設として平成12年に開館しました。

住居は明治初年に改築されていますが、大規模で質の良い近世的町屋建築の特色をよく示しており、資料館として整備する際には可能な限り建築当初の状態に近づけました。

「展示室」の特徴

店蔵を改修した展示室では、中山道、大井宿、ひし屋の3つのコーナーで、次のような展示を行っています。

- ①『中山道分間延絵図(通称)』の妻籠から大湫までの六宿の間をあげ、各宿の様子と共通点、大井宿の特色を示す。
- ②商家であり、庄屋でもあった「ひし屋」の村関係の仕事、商業の様子、そして当主がたしなだ俳諧について古文書を中心に資料をあげ、宿場がある村における村役人の様子的一端を示す。
- ③「ひし屋」に直接関係ない資料でも、大井宿や近隣村の特色に触れるものは資料として示す。

